資料３

【事業実績】

１．ネットワーク設立準議会議の開催

（１）キックオフミーティング

連携団体５団体とキックオフミーティングにより事業スタート（7 月 8 日）



（２）設立準備会議の開催

キックオフミーティング含め合計７回の設立準備会議を開催

２．国内外スポーツミュージアム等事例調査・交流及び国際情報発信

（１）先進事例の調査・交流

海外５か国６カ所、国内２カ所訪問し、先行事例を調査

① アメリカ（コロラド） United States Olympic & Paralympic Museum	9 月 19 日（金）
② アメリカ（ニューヨーク） National Baseball Hall of Fame and Museum	10 月 16 日（木）
③ スイス（ローザンヌ） The Olympic Museum	11 月 26 日（水）
④ イタリア（ミラノ） San Siro Stadium Museum	11 月 28 日（金）
⑤ オーストラリア（メルボルン） Australian Sports Museum	9 月 15 日（月）
⑥ 韓国（ソウル）NATIONAL SPORTS MUSEUM OF KOREA	10 月 30 日（木）
⑦ アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（愛称：プンカラ）	8 月 28 日（木）
⑧ 人権ネット（人権資料・展示全国ネットワーク）	10 月 7 日（火）

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



【参加者所感要約】

・デジタル化・ｅスポーツ展示の進展や優れたストーリー展示の重要性を実感するとともに、日本の導入検討や国際動向の注視が必要だと感じた。（視察先③④）

・ユニバーサルデザインを徹底した高いアクセシビリティ、最新機器を活用した双方向型アミューズメント性、そして選手との早期からの信頼関係に基づく時事性のある展示づくりが参考になった。（視察先①）

・精緻な展示表現や大規模な運営体制、人種差別の歴史を伝える取り組みの重要性を学び、今後は国内外のスポーツミュージアムと連携してスポーツ文化の発信強化を図る必要性を強く感じた。（視察先②）

・専門的人材配置を伴う高度な運営体制、国のスポーツ文化と深く結びついた持続可能な仕組み、そしてネットワーク・人材育成・理論研究・政策連動の重要性が明確となり、今後の日本におけるスポーツミュージアムネットワーク構築の方向性と課題が浮き彫りになった。（視察先⑤）

・継続的な展示更新や学芸員との長年の協力関係から多くを学び、今後は当館が培ってきたネットワークを生かして国内スポーツミュージアム連携にも貢献したいと感じた。（視察先②）

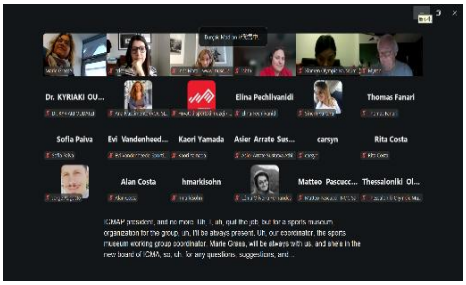
（２）国際会議への参加（ICOM-ICMAH のスポーツミュージアムワーキング）

ICOM の考古および歴史コレクションに関する国際委員会（ICOM-ICMAH）において、「スポーツ博物館とスポーツ遺産」特別プロジェクトが実施され、イギリス、フランス、オーストラリア、ブラジルのスポーツ博物館や IOC のオリンピック博物館、秩父宮記念スポーツ博物館などが参加した。スポーツ資料の保存や活

用、持続な運営課題をテーマに、オンライン・対面による計４回のワークショップが行われ、秩父宮記念スポーツ博物館は日本におけるスポーツ博物館の収蔵資料や資料保存の現状について発表した。

（３）事例調査報告書の作成

国内外の事例を踏まえ、冊子として報告書を作成し、HP にて公開



３．ネットワークに関するシンポジウム及び発足会議の開催

（１）シンポジウム及び発足会議準備（会場予約、参加団体呼びかけ等）

シンポジウムの告知及びネットワーク参画候補団体への呼びかけを実施（計 24 団体）

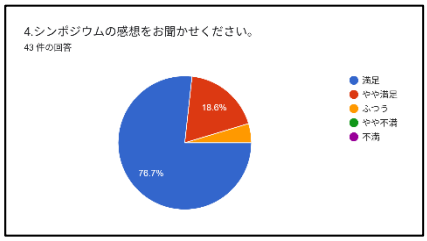
（２）シンポジウムの開催

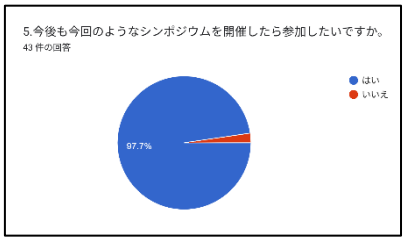
国内外事例調査を踏まえたネットワークの方向性やネットワークで実現したいことをシンポジウムで発信

開催日：2026 年 2 月 12 日（木）10 時～13 時

参加者：来場者 32 人、オンライン 75 人　計 107 人

【参加者アンケート結果】







【参加者の声】

・とても良いシンポジウムでした。

・未来へ向けて希望が持てる内容であったことを嬉しく思います。資料や情報等の募集、博物館業務に関する求人情報の共有を希望します。

・スポーツ博物館同志の活動や知見を分かち合い、組織の垣根を越えて高め合わんとする姿勢に触れ、スポーツ文化を次世代へ繋いでいこうという皆様の熱い使命感を感じました。

・色々な館においてスポーツ文化を紹介する際に、史資料の貸し借りのハードルが下がるシステムができると、全国の一般の方にも資料の重要性が普及でき、そこからスポーツ系博物館以外の博物館も含めたネットワーク活動も活発になるかと思います。

・各館・大学の強みと弱みがそれぞれ特色があり、興味深かった。また、共通する課題もあることも知りました。

・人材や予算不足で苦労している団体が多いことを知りました。団体同士の協力で、効率化を図るのが重要と感じました。

（３）発足会議の開催

ネットワークの趣旨を説明し、「日本スポーツミュージアムネットワーク」を発足させた。

出席団体 17 団体、参加団体との交流を深めるための情報交換会も開催した。

2 月 26 日時点で 12 団体が本ネットワークに参加表明（手続き準備中の団体複数あり）

【参加者の声】

・ネットワークのおかげで、知り合いも増え、今後の発展が益々楽しみとなりました。

・皆様との意見交換はとても勉強になりましたし、皆さんが同じ課題を抱えていらっしゃるので、これからのネットワークの動向が楽しみです。



（４）情報の発信（WEB サイト発信）

作成ホームページ URL：

https://www.jpnsport.go.jp/Portals/0/sportmuseumnet/tsunagu/

独立行政法人日本スポーツ振興センター秩父宮記念スポーツ博物館の取組概要（令和８年度 Innovate MUSEUM事業）

事業名及び中核館

スポーツ文化共創「つながる」プロジェクト（中核館：秩父宮記念スポーツ博物館）

交付要望額

交付要望額：5,341,000円（ネットワークの形成による広域等課題対応事業）

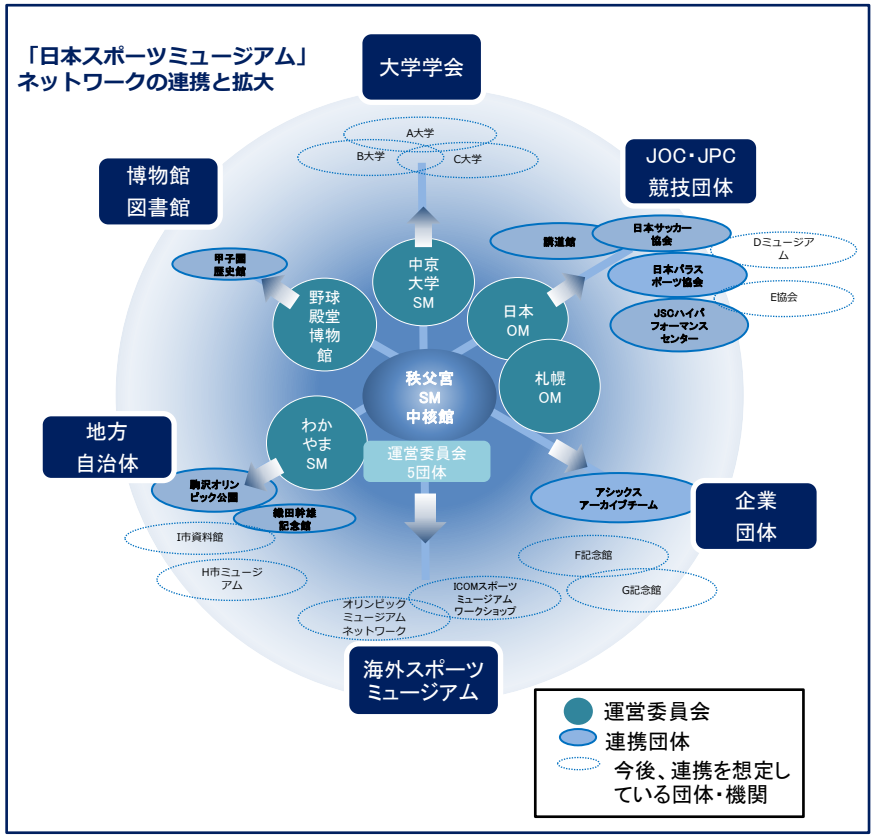
主な連携先

令和７年度Innovate MUSEUM事業で設置した日本スポーツミュージアムネットワークに参加する団体　※13団体　（令和8年3月2日現在）

中京大学スポーツミュージアム、わかやまスポーツ伝承館、日本オリンピックミュージアム、札幌オリンピックミュージアム、野球殿堂博物館、株式会社アシックス、織田幹雄記念館、公益財団法人講道館、公益財団法人日本サッカー協会、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団、公益財団法人日本パラスポーツ協会、甲子園歴史館、独立行政法人日本スポーツ振興センター ハイパフォーマンスセンター

現状の課題

国内のスポーツミュージアムの多くは学芸員等の専門職員が配置されておらず、①展示品や展示テーマ・ストーリーが固定的、②スポーツに関する記録や歴史の情報検証が不十分、③単館での収集活動範囲の限界、といった課題を抱えている。また、スポーツミュージアムの運営形態や館として取り扱うテーマ（スポーツ選手の顕彰、特定の競技、オリンピック、スポーツの歴史全般など）が多岐にわたっており、スポーツミュージアム同士の持続的な連携が未だできていない。



事業概要及び目的

【事業概要】ネットワーク基盤整備、共同デジタル展の実施、人材育成研修、国際連携の推進の4分野において、組織体制の構築・協働手法の確立・専門性向上・国際的知見の導入を図る。

【目　　的】国内に存在しなかったスポーツ資料所蔵団体の連携基盤を発展させ、制度整備・共同事業・人材育成・国際連携を通じて、ネットワークを“機能する組織”へと進化させる。

事業のモデル性・先進性

① 団体ごとに分散していたスポーツ資料を共有して活用できる仕組みを整え、資料の保存・活用・研究・発信の質を全国的に高める基盤を構築する。

② 多様な団体がネットワークを通じて連携し、学び合いや情報交換を通じて相互補完的な協働を促すことで、新たなサービスや価値を生み出す体制を形成する。

スポーツ文化共創「つながる」プロジェクト（ロジックモデル）

事業の取組	事業アウトプット	事業アウトカム
運営基盤の制度設計 （ネットワーク基盤整備）	・中期目標・中期計画（5か年） ・メーリングリスト等による連絡網の構築 ・ポータルサイトの公開 ・キックオフミーティングの開催 ・連携団体の拡大（目標：30団体） ・全体会議の開催	・中期目標・計画・ガバナンス等を整備し、ネットワークが持続的に機能する組織体制を構築する。また、ポータルサイトや連絡網の整備、全国への働きかけを通じ、参加団体の拡大も図る。 （評価指標：参加団体数・参加継続率）
共同事業の本格始動 （共同事業による情報発信）	・共同展覧会（デジタル展示）の開催	・共同デジタル展をネットワーク初の共同制作事業として実施し、各団体が協働するための標準モデルを確立する。 （評価指標：標準モデルの完成度）
人材育成の体系化 （人材育成及び研修）	・研修資料及び動画	・デジタルアーカイブ・展示・保存・権利処理などを扱う研修会を開催し、参加団体の専門性向上と共通ノウハウの形成を進める。 （評価指標：研修参加率及び理解度）
国際連携の促進 （国際交流及び発信）	・国際会議参加報告書 ・実地記録	・国際会議への参加(ICOM-ICMAHのスポーツミュージアムワーキング)や海外スポーツミュージアムとの交流を通じ、国際的知見を国内へ還元し、将来の国際共同事業につながる基盤を形成する。 （評価指標：国際会議・海外交流の成果を国内向けに整理し、共有した回数）

※アウトカムについては定性的側面が強いが、評価指標を設定して達成度合いや事業や取組の課題について検証する観点は必要